STATE OF TESTING™

REPORT 2021

テストの現状調査

レポート 2021

PractiTest

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

目次

3 はじめに
4 第一章 – 回答者の統計情報
11 第二章 – 教育とトレーニング
14 第三章 – 組織におけるテスト
32 第四章 – 自己啓発
37 おわりに

【テストの現状調査2021 日本語翻訳チームから】

このレポートは、イスラエルのPractiTest社のJoel Montvelisky氏とインドのTea-Time with Tester誌発刊者のLalitkumar Bhamare氏が2013年から毎年実施している『State of Testing Survey』の8回目となる2021年版のレポートを翻訳したものです。今回の調査は2020年12月下旬～2021年1月末にかけてWeb上で行われ、約1000人のソフトウェアテストのプロフェッショナルから回答がありました。

この調査は毎回同じ質問をしてテストコミュニティの動向変化を把握することが目的ですが、前回CI/CDやAgile Testingなどを追加して質問が増えすぎたため今回はあまり回答の変化がない5つの質問（テスターになった経緯、参加カンファレンス／講習会、テスト管理プロセス、静的テストの活動、テストドキュメント）が削除され、新たな質問は「COVID-19流行による収入への影響」のひとつだけでした。

レポートの内容からは、COVID-19の影響は特になく、近年の傾向である「全チームテスト（all team testing）」や「シフトレフト」の勢いが増してきている状況が見て取れると思います。

テスターをとりまく状況の変化が加速する中、このレポートが、みなさんがよりよいテスターライフを送るための参考材料になれば幸いです。

2021年6月
日本語翻訳チーム 辰巳 敬三、根本 紀之、中村 祐輔、やの よしを

“PractiTestをあなたのためのより良いソリューションにするのは、最高の人間のサポートと組み合わせた技術力です。”

はじめに

テストの現状調査レポートへようこそ

この1年について、他に何が言えるでしょうか…？

人間にとって最も簡単な年でなかったことは確かです。しかし、テスターとしての私たちにはどのような影響があったのでしょうか？これが私たちがここで見つけようとしていることです！

テストの現状調査とレポートの発行は今回で8回目となります。これまでの調査と同様に、世界中のテスターの回答から、主に職業としての方向性を描くのに役立つトレンドを確認することで、テストと品質保証の世界で何が起こっているのかを理解しようとしています。

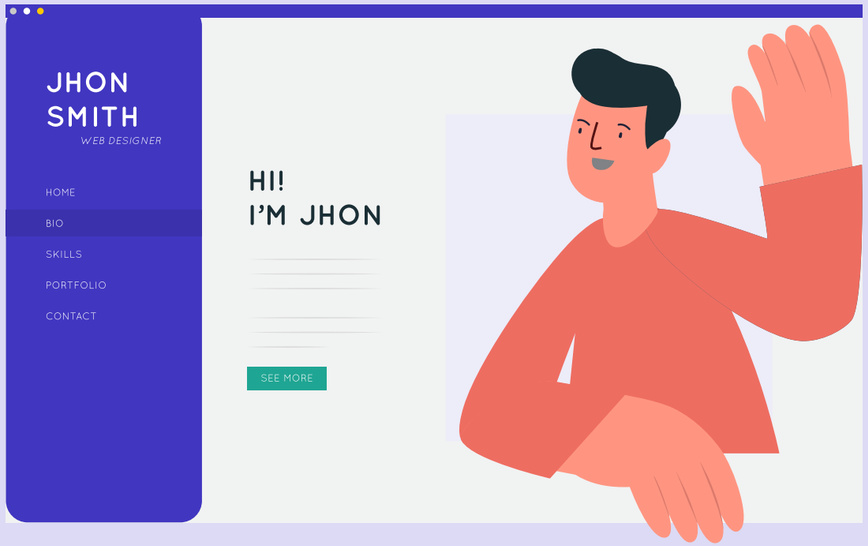
みなさんのこのレポートの読み方や探検を台無しにしたくはないのですが、方法論的アプローチに関する回答や、テスターや開発者が仕事の一環として行っている活動、通常のテスト作業以外で行っている活動に注目することをお勧めします。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただいたテスターの皆様に感謝いたします。

今後もテストと品質の向上に努めていきたいと思います。

–Joel & Lalit

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

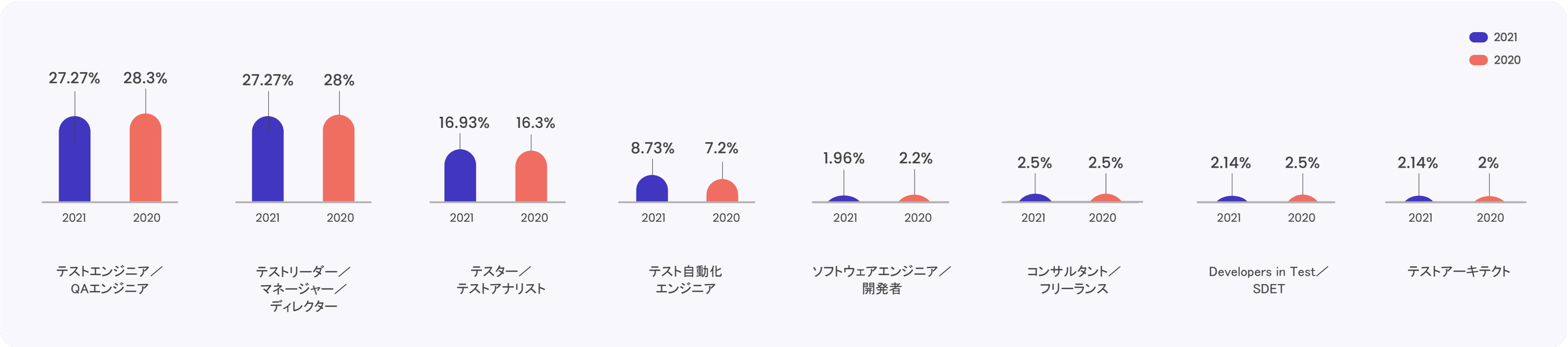


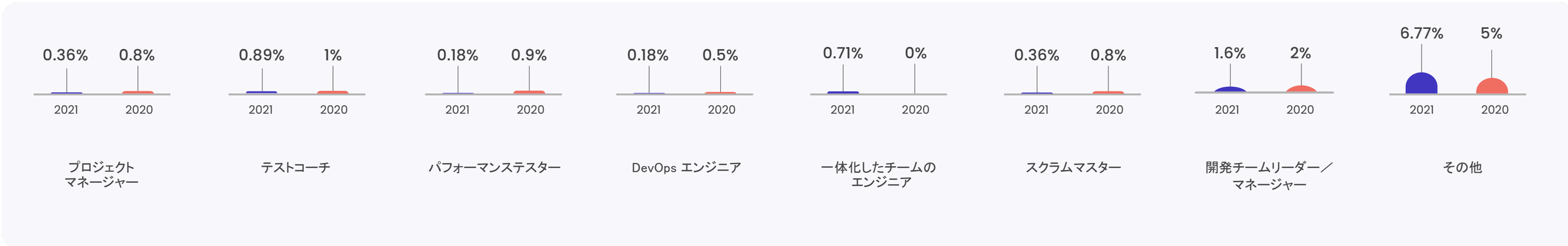
回答者の統計情報

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

あなたの現在のテスト担当者としての職位は...

次のうちあなたの職責と肩書に最も近いのはどれですか？





興味深いことに、回答者のほとんどが、自分自身を技術的なテスター（例：自動化テスターやパフォーマンステスター）ではなく、総合的なテストの専門家と定義していることです。これは、テスト専門職というのは、一般的には実務に携わるほとんどの人が日々の業務で何らかのスクリプトツールを使用するような技術的な職業だと見られているという事実から来ているのではないかと私たちは考えています。

【日本語翻訳チームコメント】

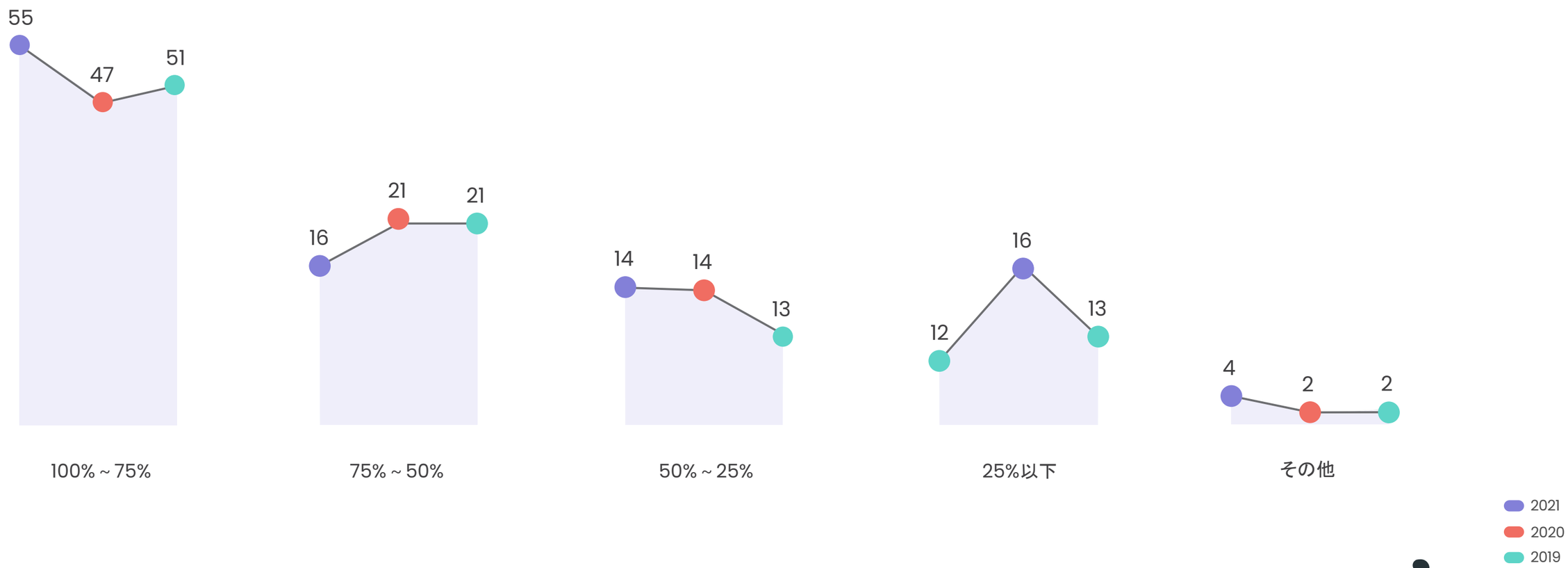
文章の意味が理解できなかったのでJoelに確認したところ、次の回答でした。

「最近の標準的なテスターは自動化などの知識や技術力を持っていることは当たり前なので、わざわざ自分を自動化テスターなど技術的なテスターと名乗る必要はないと考えています。このため、総合的なテストの専門家と回答する人が増えたのだと思います。」

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テストの仕事が全てですか？...

あなたの職務でテストの活動は何パーセントの割合を占めていますか？



一見しただけでは、この質問の傾向が決定的なものか分かりません。以前まではテスト作業に100%専念しているテスターの数は減少していましたが（作業の一部として追加のタスクを実行するテスターと比較して）、今回の調査ではこの傾向は一転しました。

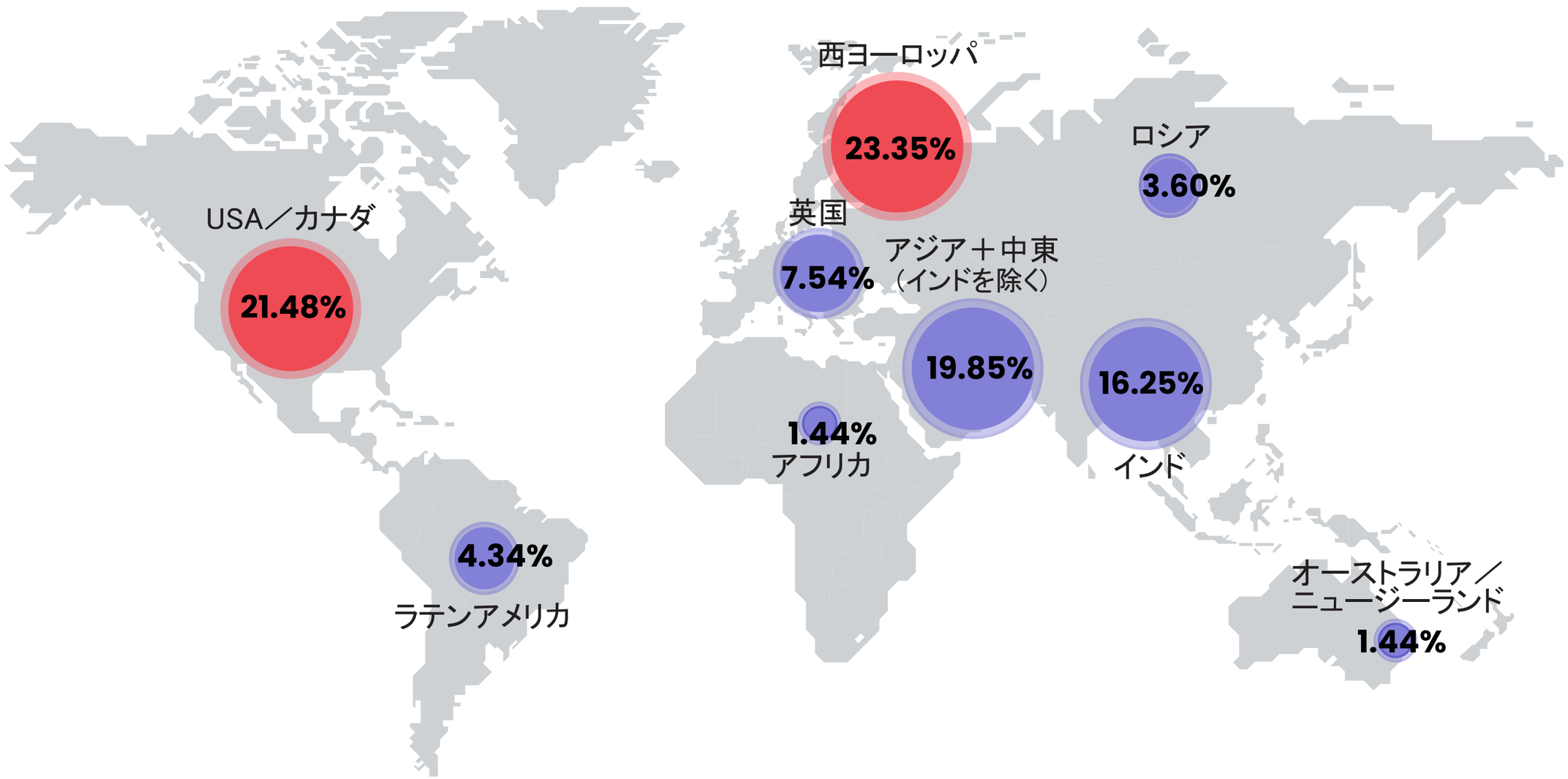
テストチームの規模がこの傾向に大きく影響するということが分かります。テストの組織が大きくなればなるほど、テストに焦点を当てた仕事の割合が高くなります。特に50人以上のテスターを抱える組織では、テスト専門チームが置かれるようになります。

最後に、テスト手法と実際のテスト作業に費やす時間の割合にも相関関係があります。モダンテストの原則に基づいて作業している回答者は、正式なテスト活動に費やす時間が少ない傾向にあります。一方、ウォーターフォール型とアジャイル型の両方で作業している回答者は、逆の傾向を示しています。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

あなたの働いている地域は...

どの国で働いていますか？



© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テストやテスト関連の仕事の年収は

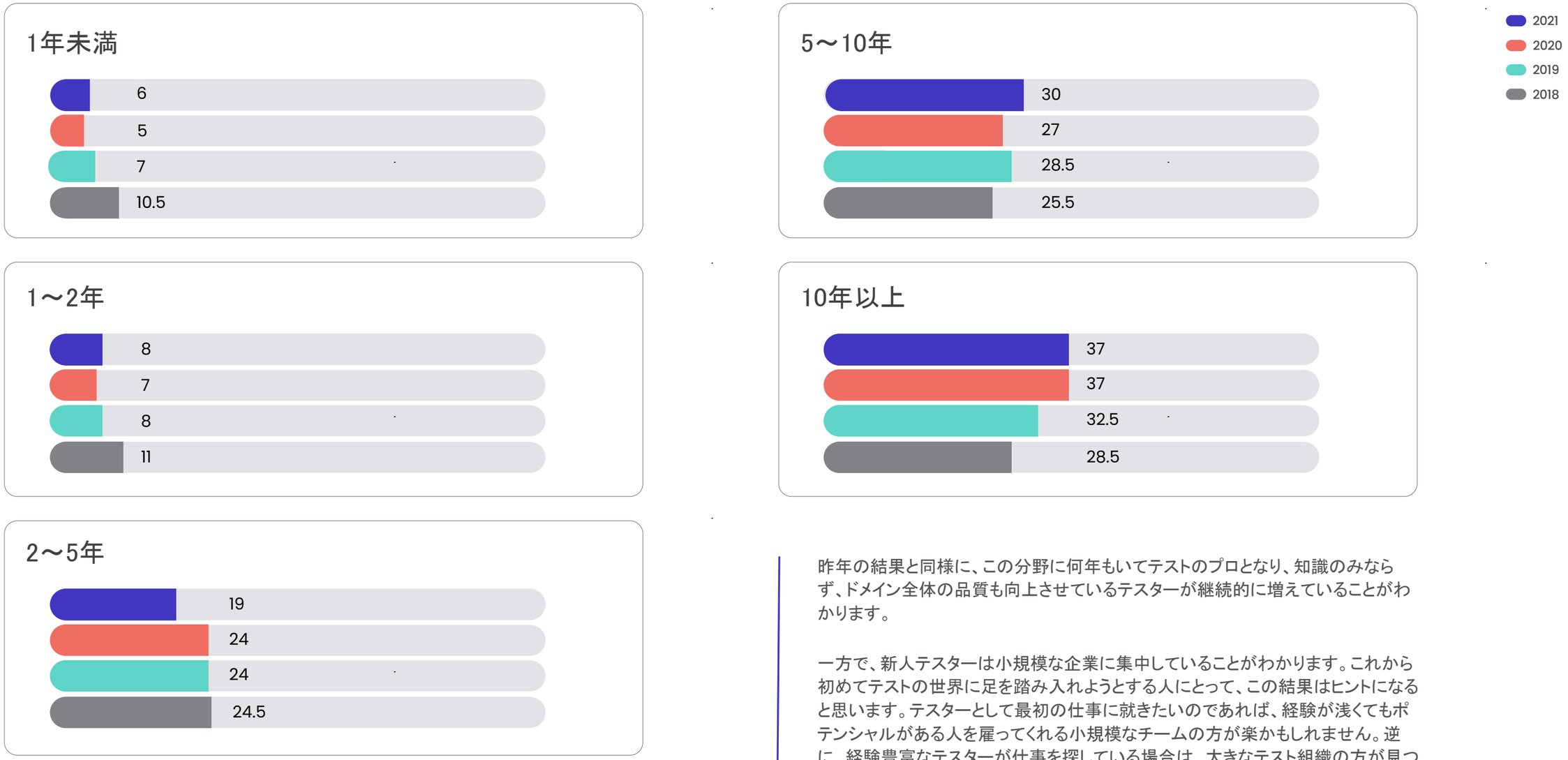
	1年未満	1～2年	2～5年	5～10年	10年以上
アフリカ	7K	24K	50K	78K	NA
アジア＋中東	NA	NA	40K	59K	NA
インド	15K	NA	28K	39K	49K
ラテンアメリカ	5K	15K	20K	37K	NA
ロシア／東ヨーロッパ	5K	18K	20K	NA	NA
USA／カナダ	52K	68K	85K	89K	111K
オーストラリア／ニュージーランド	NA*	40K	65K	76K	87K
西ヨーロッパ	21K	29K	35K	52K	69K

*NA– 結論を出すのに十分なデータがない
すべての数字は米ドル

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

あなたのテスト分野での経験...

どのくらいの期間テストの仕事をしていますか？ %



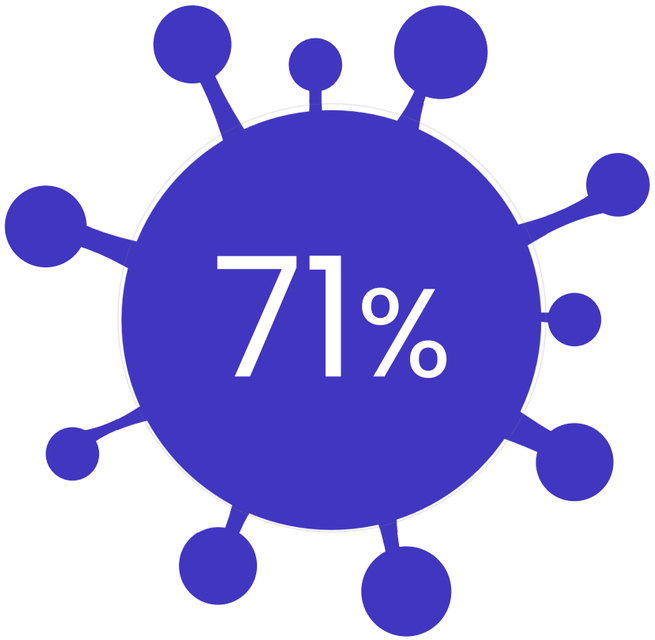
昨年の結果と同様に、この分野に何年もいてテストのプロとなり、知識のみならず、ドメイン全体の品質も向上させているテスターが継続的に増えていることがわかります。

一方で、新人テスターは小規模な企業に集中していることがわかります。これから初めてテストの世界に足を踏み入れようとする人にとって、この結果はヒントになると思います。テスターとして最初の仕事に就きたいのであれば、経験が浅くてもポテンシャルがある人を雇ってくれる小規模なチームの方が楽かもしれません。逆に、経験豊富なテスターが仕事を探している場合は、大きなテスト組織の方が見つけやすいかもしれません。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

今回のCOVID-19の流行で、あなたの収入は影響を受けましたか？

いいえ



はい

回答者の大半がCOVID-19の流行による収入への影響を受けていないことは嬉しい知らせでした。影響を受けた人の中には、給与や契約時間の減少、401Kのマッチの給付を中止したり、年次昇給を行わなかった会社、報酬への間接的な影響として株価の低下などを挙げた人もいました。一方、ポジティブな面としては、より良い仕事が見つかった、ワークライフバランスが改善された、会社の仕事が増えて契約業務が大幅に増えたことで収入が増えた、などの報告がありました。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

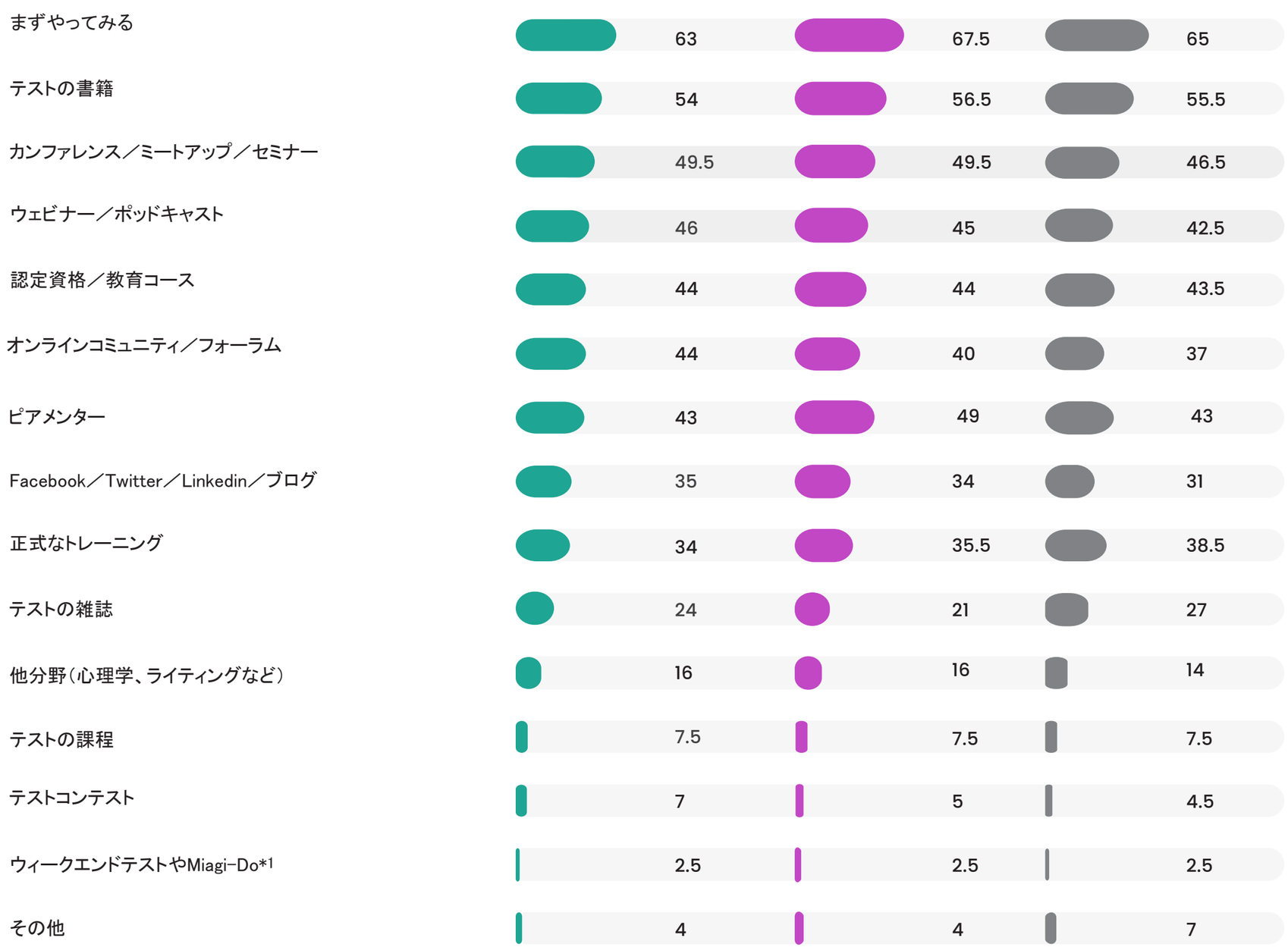
教育とトレーニング

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

Brought to you by: PractiTest

どのように「テスト」を学んでいますか？ ー 現在、そして仕事を始めた時

知識を高め、テストのスキルを磨くために、現在、もしくは以前から続けて用いている方法は何ですか？（複数回答あり） %



例年と同様に、カンファレンスに参加したり、オンラインリソースを利用してスキルを磨くテスターは増えていますが、正式なトレーニングを受けるテスターは少なくなっています。また、オンラインのリソースや活動が増えたのは、今回のCOVID-19の流行による間接的な影響かもしれません。

ここにある「その他」の回答を見るのが好きなのは、人々に知識を広げ続ける方法についてのアイデアを提供してくれるかもしれないからです。

多く追記された回答：

Udemy*2 テスト自動化アカデミー、Coursera*3、StackOverflow*4、社内の他のテスターとの会話などです。

思考の糧ですね…！

【日本語翻訳チームコメント】

*1 Miagi-Do（http://www.shino.de/tag/miagi-do/）
Miagi-Doの由来はご存知ですか？名前は映画ベスト・キッド（The Karate Kid）で主人公の少年に空手を教える日本人の老人のミヤギさんから来ています。Doは「道」です。欧米ではテストやソフトウェア開発の手法の用語として、型（kata）とかの日本語用語が使われたりしています。

*2 Udemy（https://www.udemy.com/）
誰でも先生になって自分の講座をインターネット上に公開できる教育プラットフォームです。英語が中心ですが、11の言語に対応しており、日本語の講座も公開されています。

*3 Coursera（https://ja.coursera.org/）
教育技術の営利団体で、世界の多数の大学のコースを無償でオンライン上に提供しています。

*4 StackOverflow（https://stackoverflow.com/）
コンピュータや情報技術、特にプログラミング技術に関するQ＆Aサイトです。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

組織内のテスターの人数

組織内で働いているテスターは何人ですか？（複数のチームがある場合は全員） %

昨年に引き続き、今回も小規模グループを分けています。これにより組織内のテスターが1人の場合と、2～5人の小規模なテストチームの場合を区別することができます。大規模チームの割合が増加していることは意外であり、来年の調査でさらに深掘りする必要があります。

可能性がある説明（確認が必要ですが）は、テストは開発者や DevOps エンジニアだけで行う些細な作業ではないことに会社が気づくと、アジャイルチームや DevOps チームに専任のテスターを組み込むことに戻っていくということかもしれません。

*2019年以前は最少の選択肢は1～5人のテスターでした。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

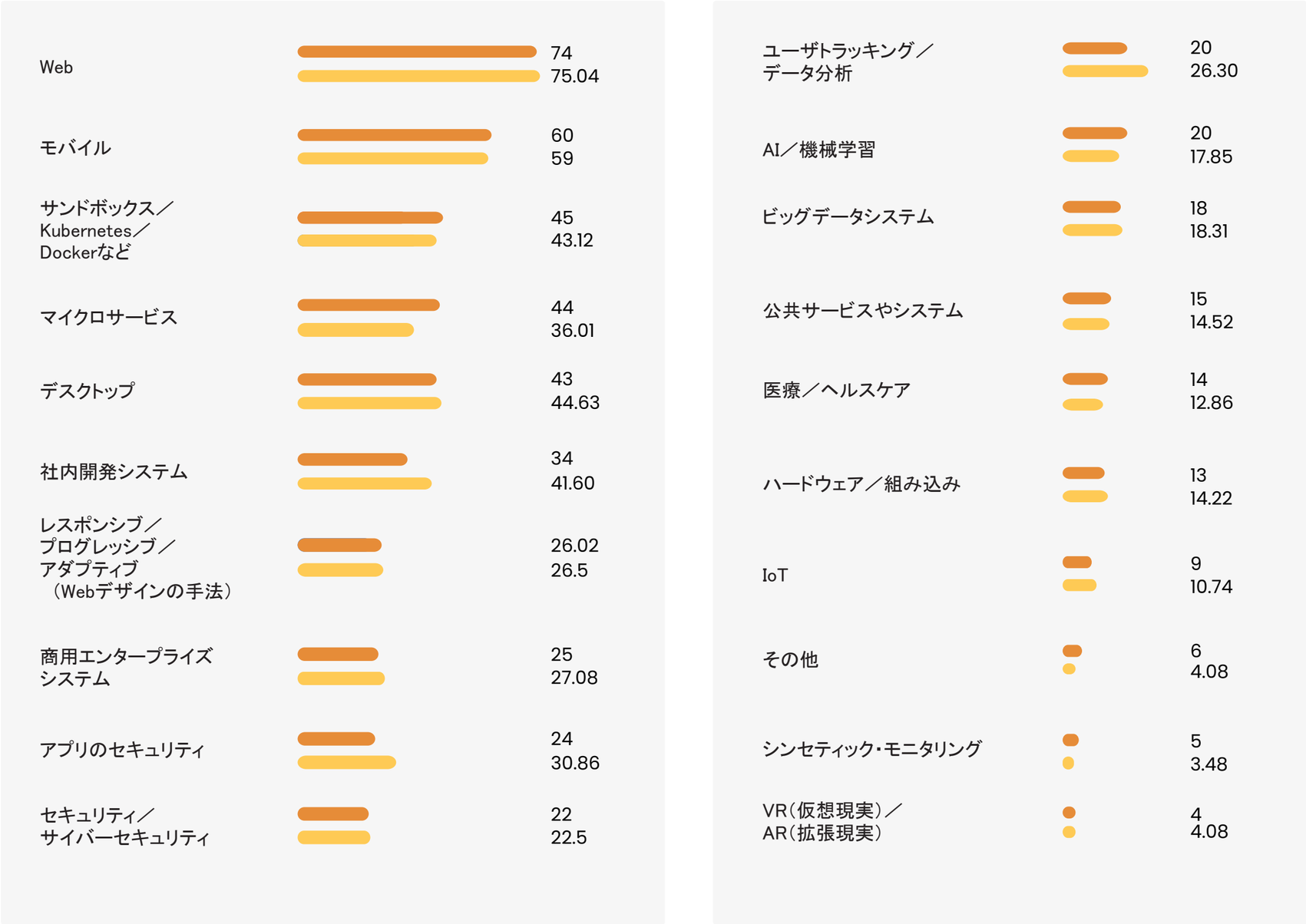
組織におけるテスト

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

Brought to you by: PractiTest

テスト対象のシステム／技術

あなたの会社が現在使用、開発、テストしているシステムや技術はどれですか？（複数回答あり） %



マイクロサービスは、この技術が今後数年間は引き続き重要であるという私たちの想定通りに存在感を増し続けています。対照的に、組織でテストされる社内開発システムの数は著しく減少しています。これはベンダー企業にとってはよいニュースです。「その他」では、「テレコン」「API」「SAP」「CRM」などの技術がありました。

新しい技術の登場とそれがもたらす課題が、テスターにとってより多くの機会を生み出します。私たちは新しいことを学び、興味深い戦略、ツール、フレームワーク、メソッドを考え出す必要に迫られるでしょう。カンファレンスやその他の現代的なプラットフォームを通じて、お互いに学び合う場がより関連性を持つようになると思います。興味深いことに今回の調査では、いくつかのトレンドで提起された質問が別のトレンドで一部回答されています。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

組織内の開発／テストモデルまたは原則

あなたの組織ではどのタイプの開発／テストモデルまたは原則に沿っていますか？（複数回答あり） %

	2021	2020	2019	2018
アジャイル／アジャイル的	92	89	87	89
DevOps	42	41	36	28
ウォーターフォール／ウォーターフォール的	27	32	30	33
BDD（ビヘイビア駆動開発）	27	23	23	17
TDD（テスト駆動開発）	21	22	20.5	19
独自のモデル／原則	8	10	10.5	13
MT（モダンテストの原則）	6	5	NA	NA
FDD– Feature Driven Development（機能駆動開発）	4	8	NA	NA
どの構造的モデルにも沿っていない	4	8	5.5	7

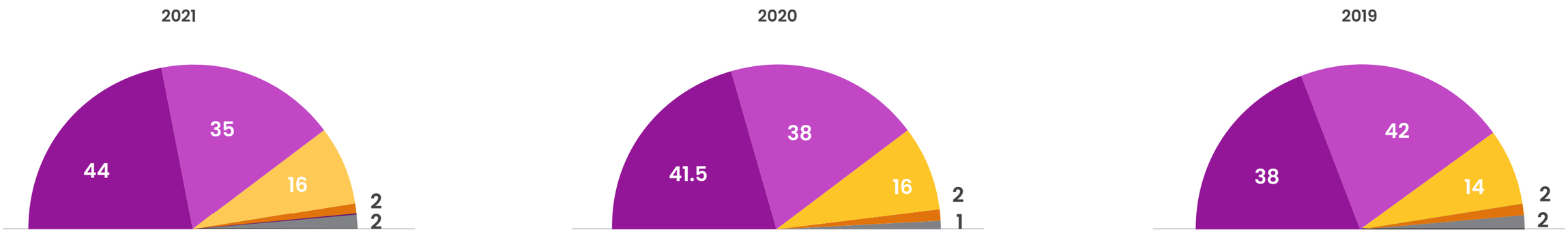
現在のトップモデルはアジャイルとDevOpsであり、年々増加傾向にあります。ウォーターフォール型のプロジェクトは、ゆっくりとしたペースで減少し続けています。

BDDは、開発およびテストプロセスを定義するためにこのアプローチを導入する企業が増えているので勢いを増しています。

数字の中身を見てみると、大企業は中小企業よりもBDDとTDDをより多く使用していることや、どの構造的モデルにも沿っていないと答えた回答者の大部分が従業員10人以下の企業であることが分かりました。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

あなたの組織ではCI（継続的インテグレーション）やCD（継続的デプロイ）を使っていますか？



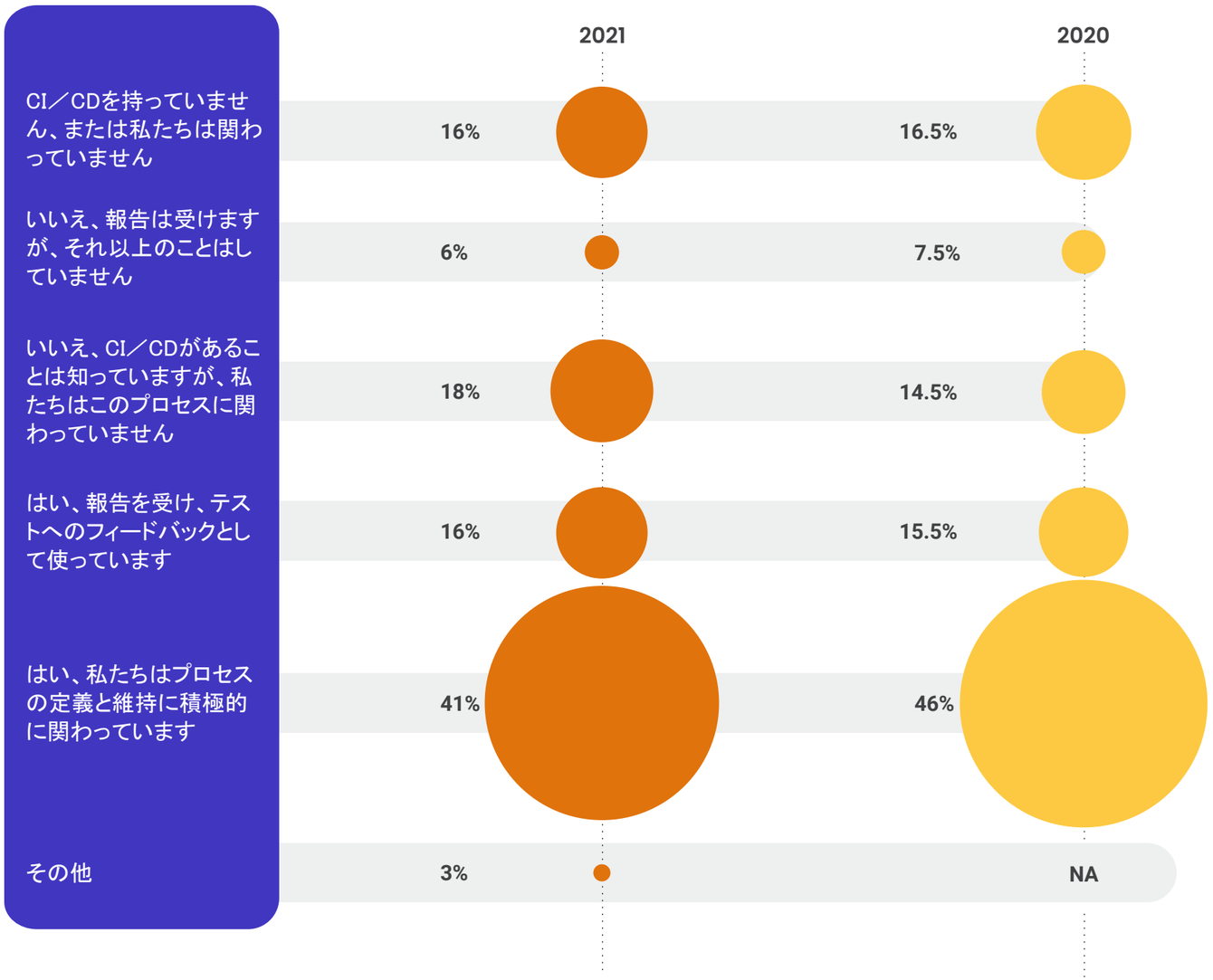
- 全てのプロジェクトで採用
- いくつかのプロジェクトで採用
- 非採用
- CI／CDって何？
- その他

今年の結果では、CIの採用割合全体は変わらない（大体80%）ものの、「全てのプロジェクトで採用」の割合が高まる傾向が続いています。

このプロセスへのテスターの関与については答えは出ていません。私たちの考えでは、CIプロセスの品質面や開発中の製品の安定性に対する全体的な重要度を考えると、テスターはCIプロセスの定義と実行の一部であるべきだと思います。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テストの組織はCI／CDプロセスの一部ですか？



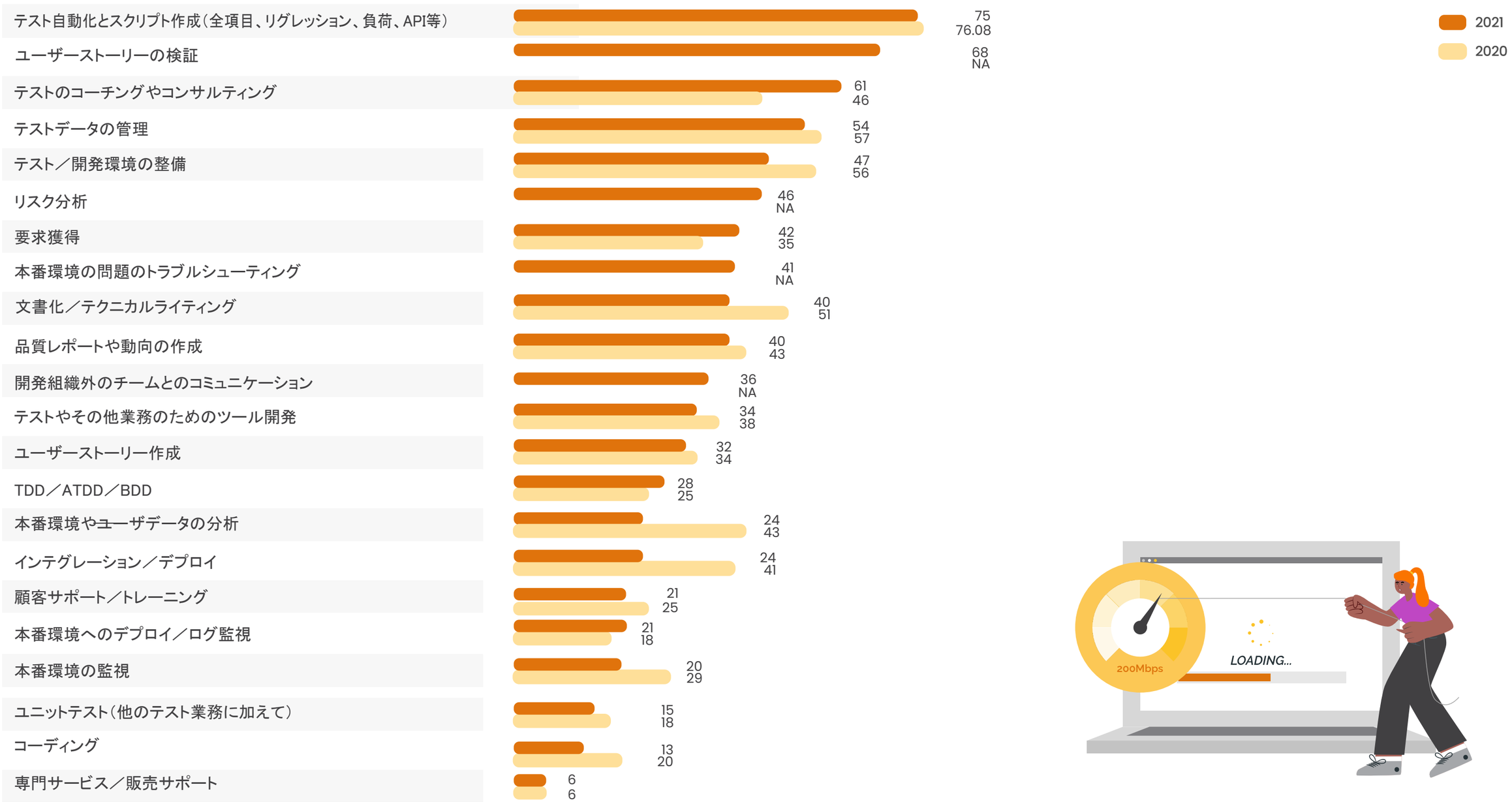
今回は、CI／CDプロセスにおけるテストが一歩後退し、会社の品質とテストに関する全体プロセスの一部となるべきものに関与していると答えた回答者が少なくなっています（46% → 41%）。

私たちにはまだやるべきことがあります！

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

組織におけるテスターの作業

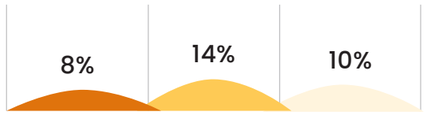
テスト以外に、テスターは組織内でどのような作業をしているのでしょうか？（複数回答あり）



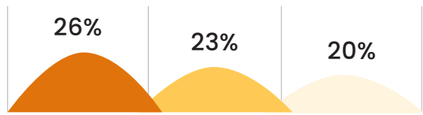
© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テスト技法と方法論

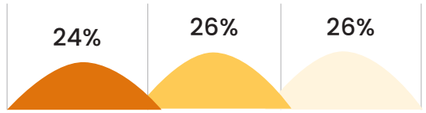
どのテスト手法を用いてテストをしていますか？（複数回答あり）



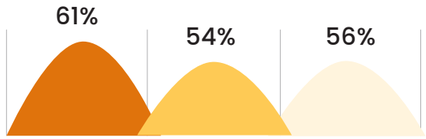
モブテスト



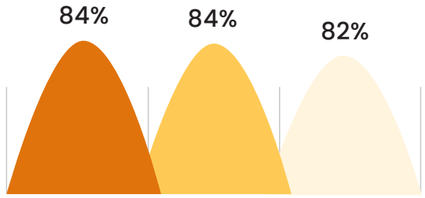
ユーザーシミュレーション／
ペルソナテスト



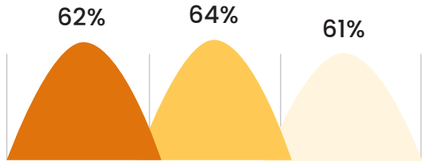
調整されたユーザー（ベータ）テスト



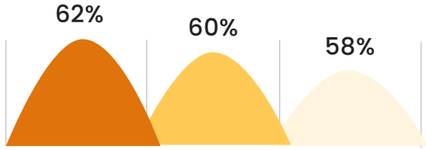
テスト仕様化の技法
（同値分割、境界分析など）



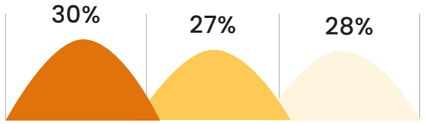
探索的テスト
セッションベースドテスト



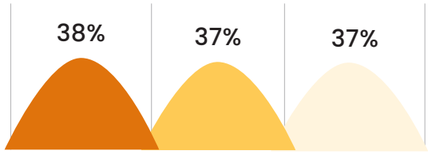
伝統的なスクリプトベース確認



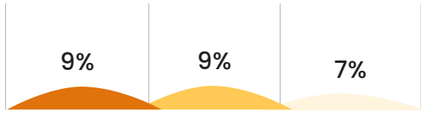
アドホックテスト



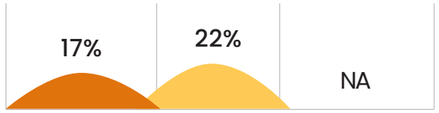
ペアテスト



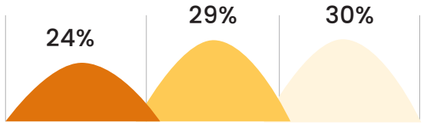
バグ出し／テストセッション



製品遠隔測定(テレメトリー)の分析



A/Bテスト



製品ログのレビュー
（本番環境またはテスト環境）

コードウォークスルー

大抵のテスターが日々のテスト作業で取り混ぜて使用するテスト手法群については目立った変化はありません。しかし、ペアテストやペルソナをツールボックスの一部として使用するテスターの割合が着実に増加していることが分かります。

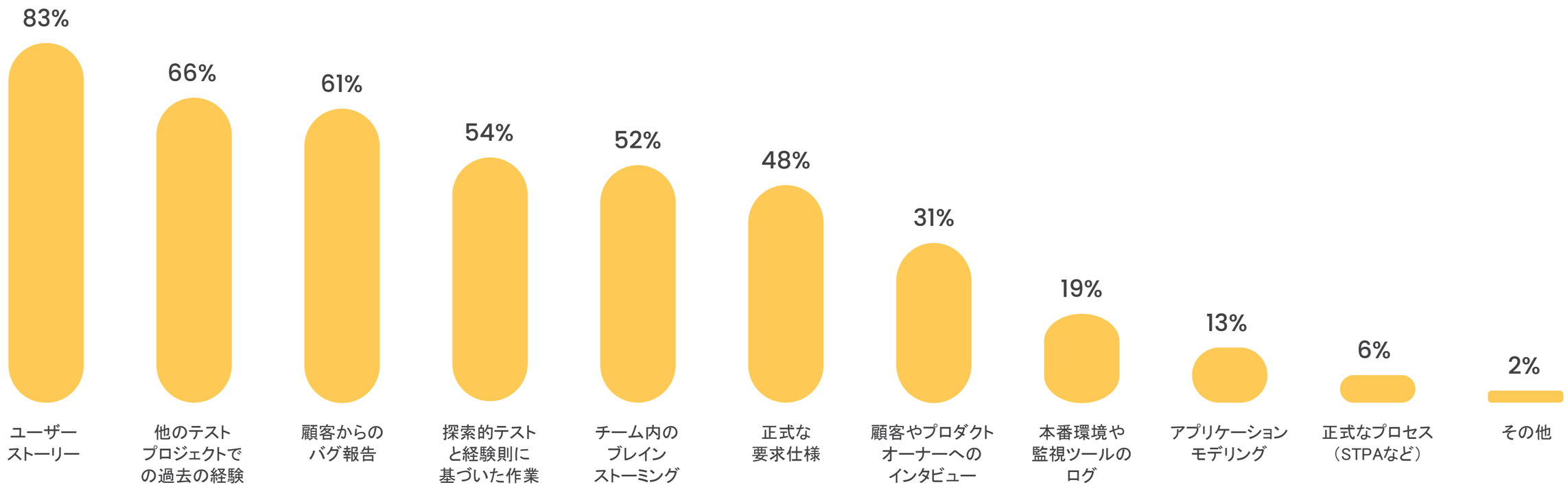
また、今年は開発者と仕事をする際に非常に有効なツールであるコードウォークスルーの選択肢を追加しましたが、すでに仕事の一部としてこのアプローチを使用している回答者がいることを確認できたのは良かったです。

2021
2020
2019

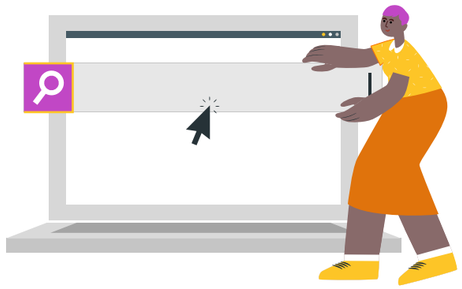
© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テストのための情報源

テストを行うために必要な情報はどのようにして得ていますか？



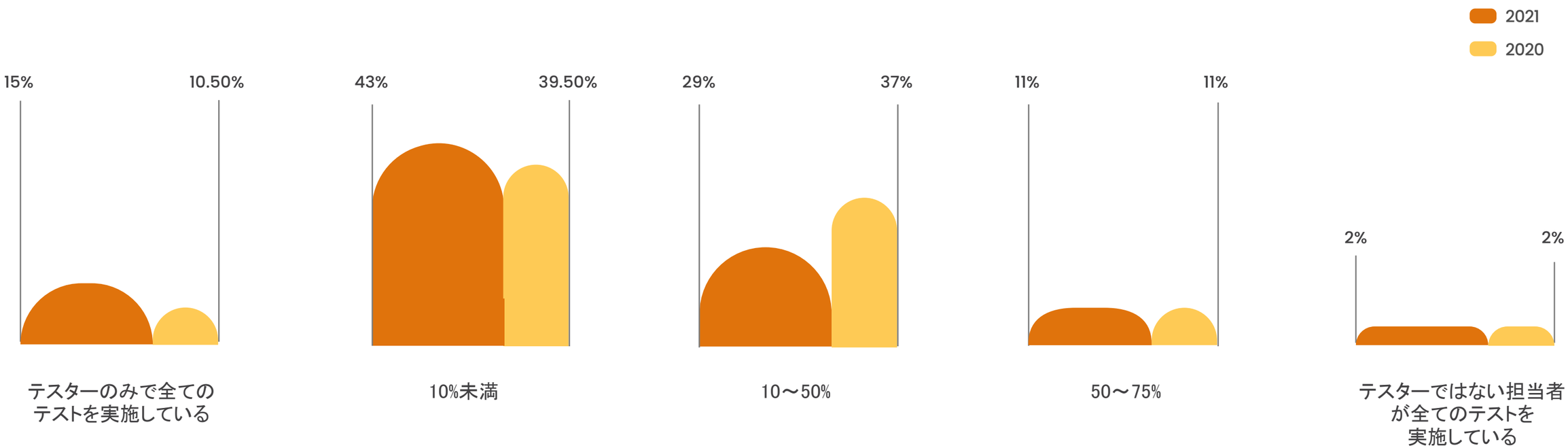
ユーザーストーリーや過去の経験が、何を実行するかを決めるために必要な情報を得る一番の情報源となっています。他の情報源のトップは、顧客からのバグ報告や探索的テストで、これらが2番目に重要な情報源となります。これは、業界のプロフェッショナリズムの成長と長年の経験によるものであり、驚くべきことではありません。



© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テスター以外によってどれくらいの割合のテストが実施されているでしょうか？

多くの組織では、他のチームメンバーも正式なテストプロセスに参加しています。
（開発者、プロダクトオーナー、サポート、エンドユーザーなど）



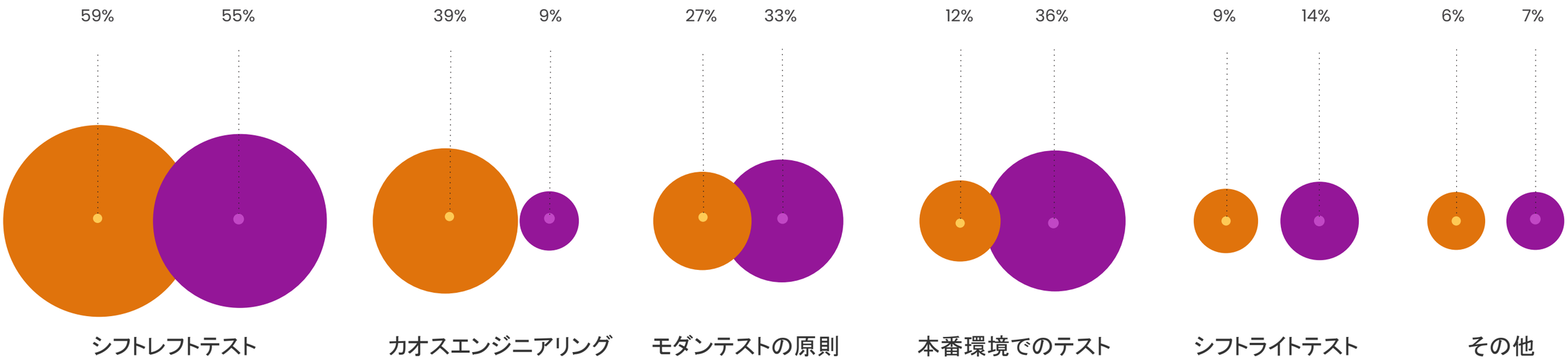
今年は、テスターのみで全てのテストを実施している組織が増えたことに少し驚きました。今後のテストの現状調査で引き続き注目していきたいと思います。

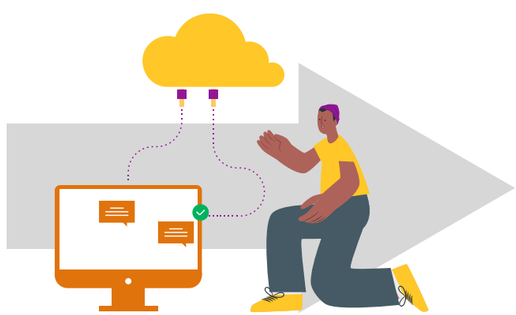
しかし、データをよく見てみると、いくつかの興味深いパターンが見えてきましたので、ご紹介します。
- シングルテスター（テスターが1人しかいない組織）は、全てのテストをテスターが（1人だけで）行っているという回答の割合が依然として最も高い。
- 大規模な組織は、小規模な組織と同様に、テストプロセスにチーム全体が参加することを推進する傾向がある。
- テスト担当者と開発者の間で多くのテスト作業が分担されているのは（当然のことながら）モダンテストの原則を採用している組織であり、続いてTDDやBDDのアプローチを採用している組織、次にDevOpsやアジャイルを採用しているチーム、最後にウォーターフォールの原則を採用しているチームとなっている。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

組織におけるテストプロセスやテスト技法の適用

どのようなプロセスや技法に従い、実施していますか？





シフトレフトテストの適用が増えている一方で、本番環境でのテストとシフトライトテストの適用が減ってきていることが分かります（これは、カオスエンジニアリングの増加とやや矛盾しています）。この問題は、今後も注目していく必要があります。

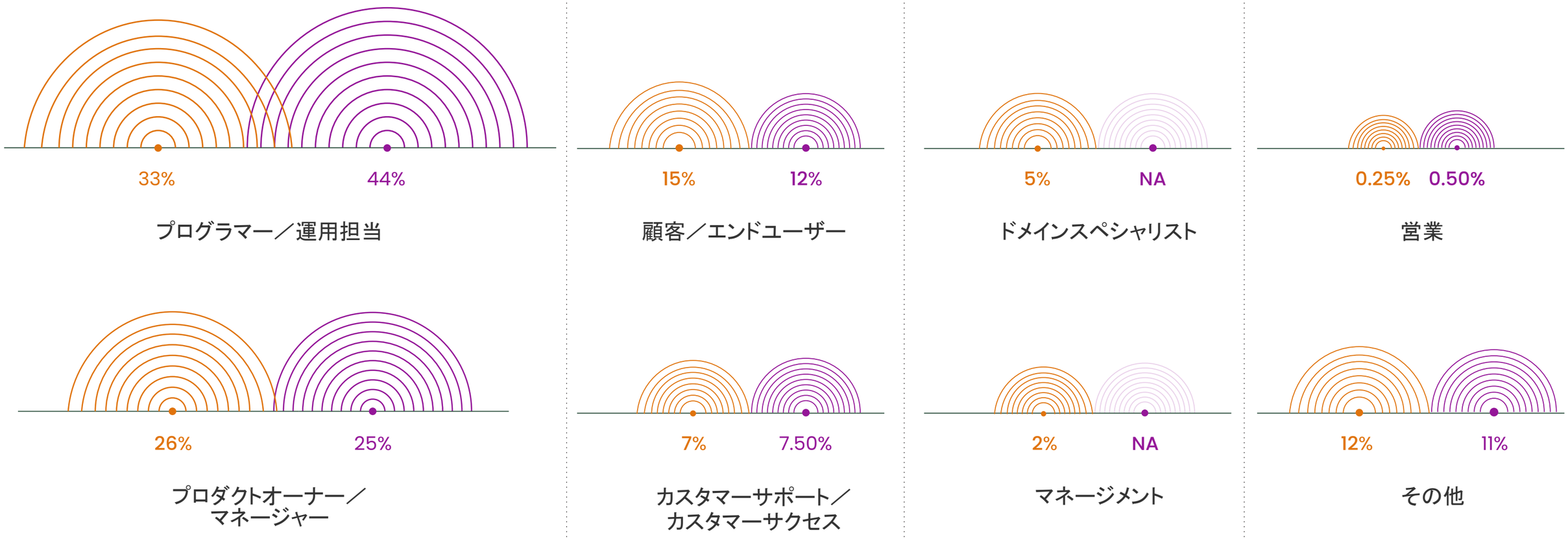
「その他」の回答としては、「自動化ファースト」のアプローチと、組織的な方法論としての「継続的改善」の適用がありました。

2021
2020

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

あなたの組織では、他に誰がテストに参加していますか？

先ほどの質問の続きですが、社内でテストを実施している人の中に、専任のテスターではない人がいる場合、その人たちは誰なのでしょう。



テスト作業に協力してくれる人を知ることは重要であり、開発者がその筆頭であることは驚くことではありませんが、エンドユーザーやドメインスペシャリストに依頼できるのと同様に、プロダクトオーナーやカスタマーサポートの人にも協力を求めることができることに注目してください。

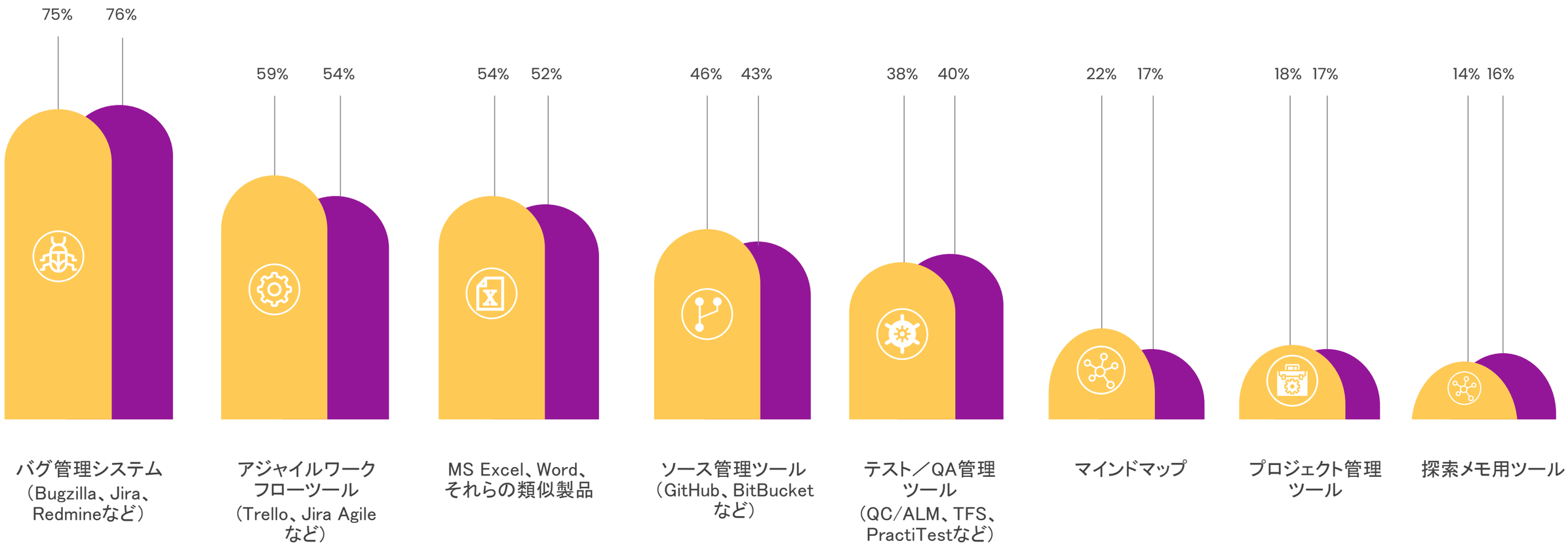
ユーザーと直に接することの多い営業担当者がなぜもっと積極的に参加しないのか、その理由は100%分かりませんが、見直すべきだと思います。

2021
2020

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テスト管理ツール

テスト管理にはどのようなツールを使用しているでしょうか？



多くのチームがアジャイル開発を採用するにつれて、テスト管理作業の大部分をアジャイルワークフローツールが占めるようになってきましたが、OfficeやEメールのようなテスト用ではなく開発用でもないシステムも重要な役割を果たしていることが分かります。

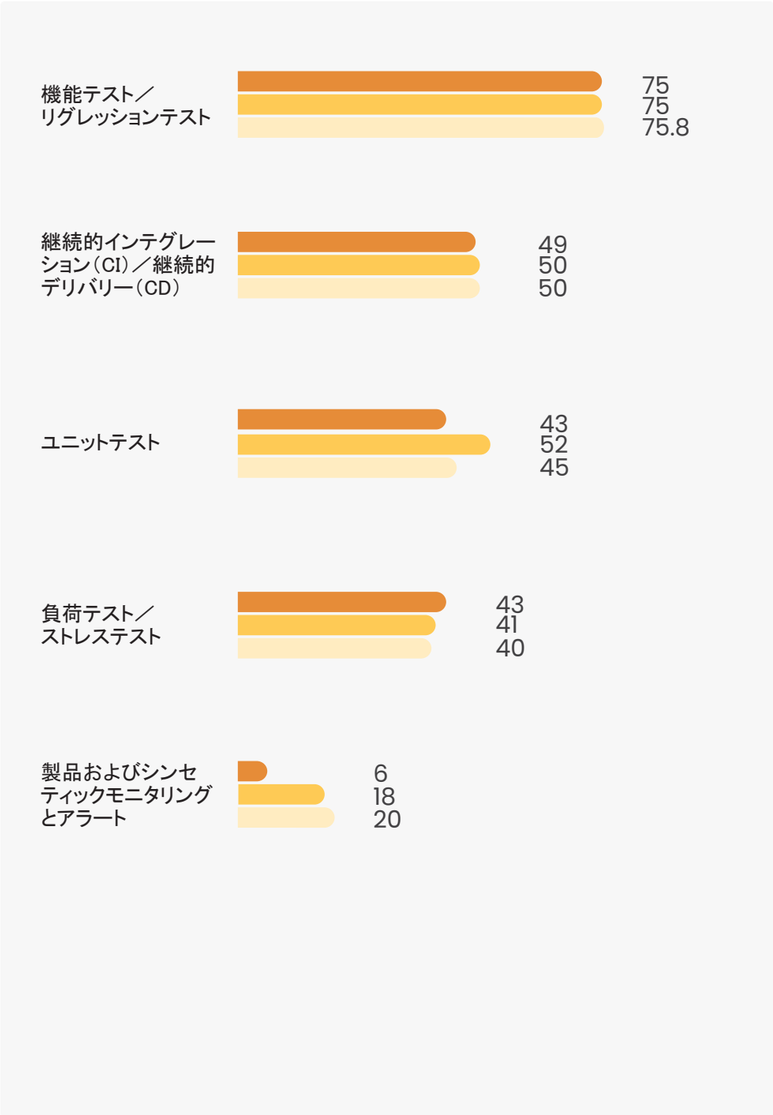
前年と比較して、マインドマップの使用が増加し、探索メモ用ツールの使用が減少していることが分かります。

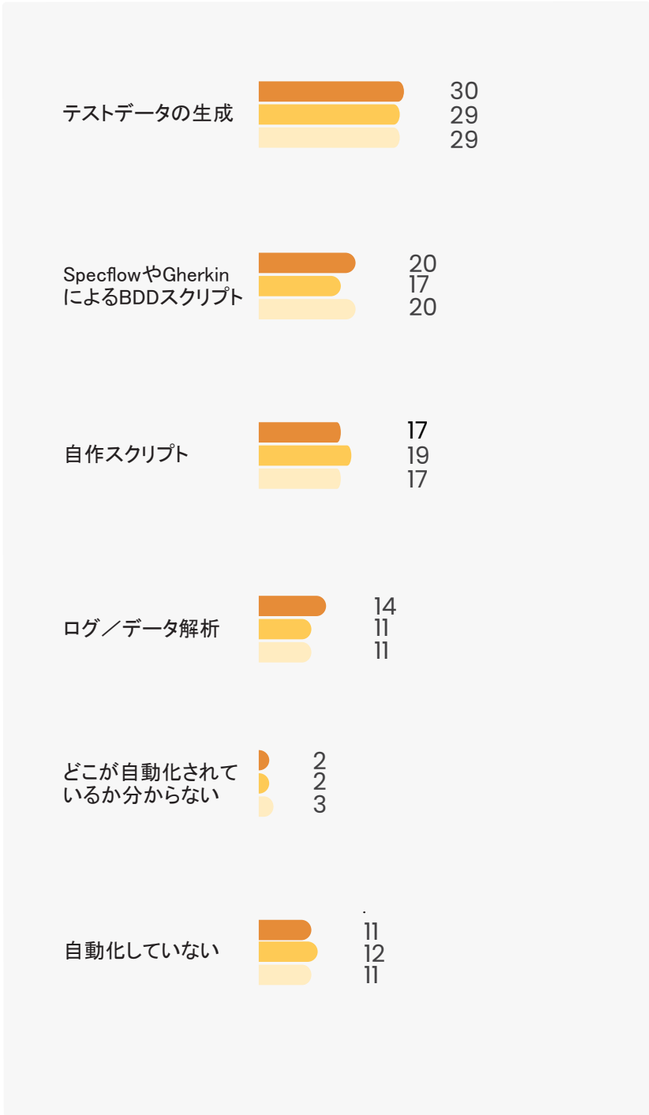
2021
2020

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

スクリプト化／自動化

あなたの組織では、スクリプト化や自動化をどこで使っていますか？ %





ここで私たちが注目したのは、BDDやログ／データ解析の使用が増加していることです。また、ユニットテストが大幅に減少していることも注目すべき点ですが、ほとんどの組織では、ユニットテストは開発チームの責任範囲となっています。

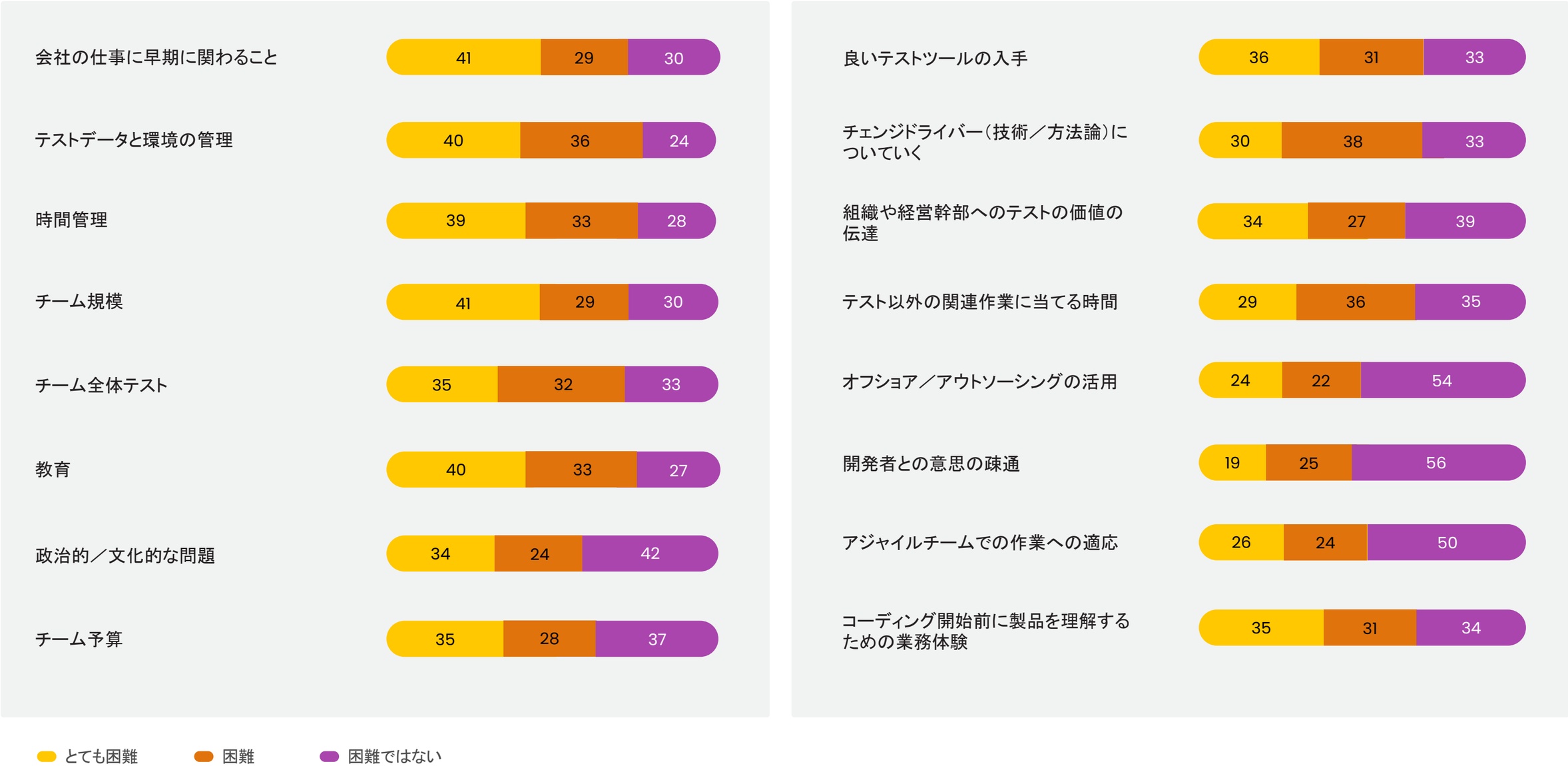
製品のモニタリングの減少も興味深いものですが、これまでのいくつかの回答で見られた、シフトライトテストや本番環境でのテストの減少と一致しています。

2021
2020
2019

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テストチームの課題

あなたの組織のテストチームやチーム作業では、以下の事項の難易度はどれくらいですか？



© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テスト方法の変化

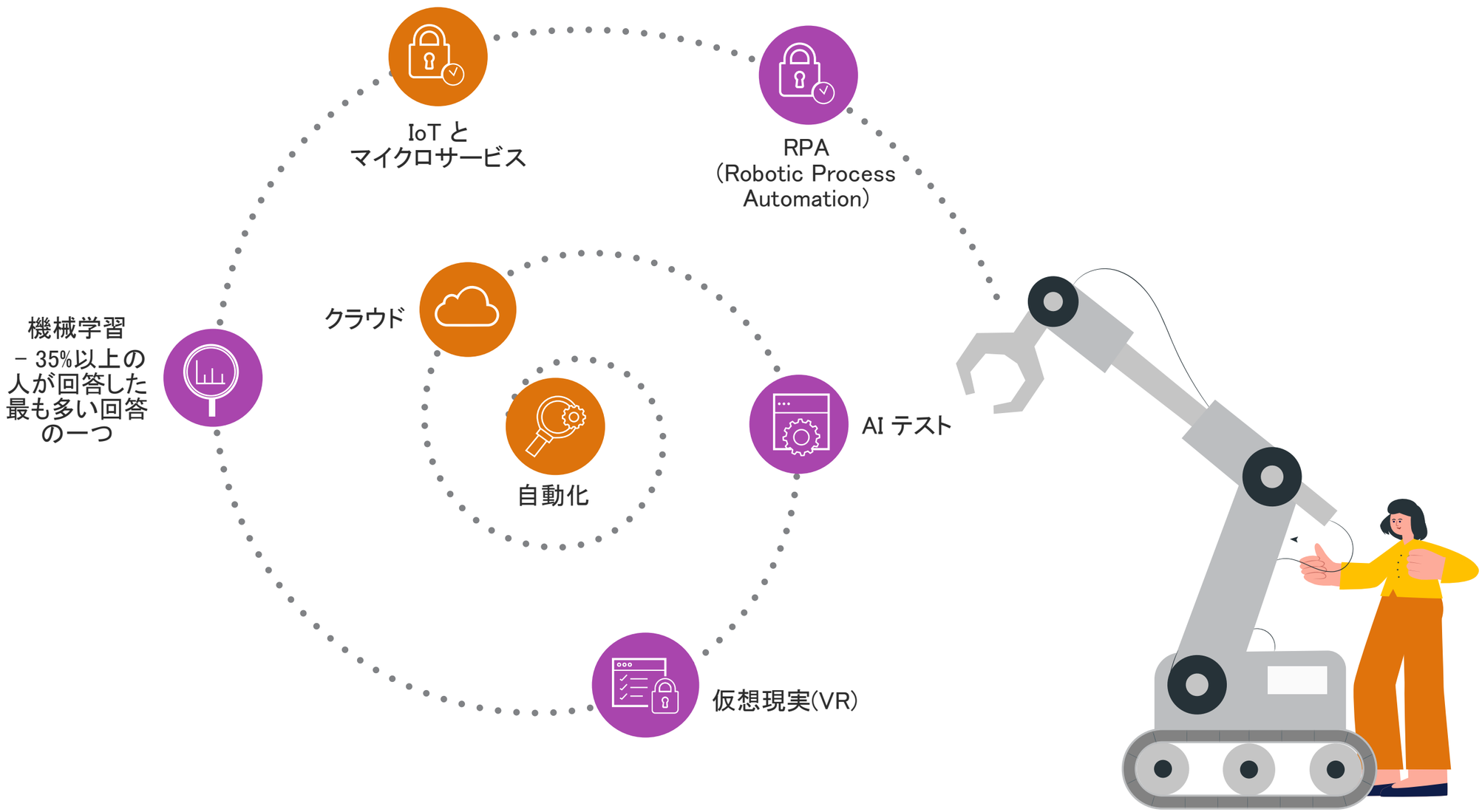
どのようにチームに新しいプロセスを導入しているのかを「自由回答」の形式で尋ねるのが好きなのですが、かなり興味深い回答がありました:

- テスト自動化を改善し、チーム全体に自動化を普及させるために、キーワード駆動の自動化テストを導入し、その後の実装を行った。
- アジャイルチームでは、専任のQAエンジニアの役割を廃止した。すべてのQAエンジニアをソフトウェア開発者に変えたのです。アジャイルチームでは、彼らの主な仕事はコード作成であり、テストのチャンピオンになった。
- テスト／テストカバレッジの正式なピアレビューシステムを導入した。
- ニーズや要求に応じて、テスト駆動開発や振舞駆動開発を適用した。
- ツールが細分化されているため、手動テストと自動テストを組み合わせた。
- 従来のスクリプトベースのテストから、実践的なテストとテストの文書化に移行している。これによりテストの効率が上がり、ドキュメント作成にかかる時間も短縮された。当座の混乱の防止のため、この変更はまだ組織的に行っている。
- 自身のテスト方法を変えたが、今度は組織の他のメンバーにモダンテストの原則を採用してもらおうとしている。競争力を維持するためには、品質の高いソフトウェアのスループットを向上、あるいは、「出荷可能な品質への到達を加速させる」必要がある。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テストの世界で今後3～5年で重要になる新しい技術やテーマ

今後どのようなトピックや分野が「ホット」になるのかを理解するために、回答者へ向けた別の自由回答形式の質問になります。若いテスターや、今後どの技術に対して自分の知識を深めるかを自問自答している人たち、ここに興味深いアイデアがありますよ！



© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テスト以外の追加活動

テスト容易化のため
のコーチングチーム

スクラムマスター
としての役割

ユーザーストーリー
の作成、ユーザー
ストーリーに対する
デザイン画面の分析

Jenkinsでの
CI作業

開発者やテスターを含む10人の
チームのシニアマネージャーに
なった（!!!）

開発された新製品の機能に
関するセールスや他のチーム
メンバーへのトレーニング

要件ベースのテストを確実に行う
ための、確立されたプロジェクト
ツールを使用したトレーサビリティ
の概念の設定

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

成功するために必要なテストのスキルと知識

	非常に重要	重要	重要でない
コミュニケーションスキル	78%	20%	2%
機能テスト自動化とスクリプト作成	63%	34%	3%
APIテスト	63%	34%	3%
Web技術とテスト	59%	36%	5%
一般的なテスト方法論	58%	40%	2%
テスト自動化パターン、原則、実践	49%	47%	4%
テスト／実験の設計	49%	47%	4%
セキュリティテスト	44%	46%	10%
アジャイル開発方法論	44%	47%	9%
パフォーマンス／負荷テスト	38%	55%	7%
コーチング／トレーニングスキル	37%	52%	11%
マイクロサービステスト	34%	50%	16%
モバイル技術とテスト	33%	56%	11%

	非常に重要	重要	重要でない
対顧客スキル	33%	50%	17%
クラウド環境のテスト	33%	50%	17%
プログラミングスキル	30%	58%	12%
データ分析	29%	59%	12%
エンタープライズ系ソフトウェアやプロセスのテスト（ERP、CRM、Biなど）	22%	52%	26%
機械学習テスト／AI	19%	47%	34%
ビッグデータテスト	19%	53%	28%
ビジネススキル	18%	56%	26%
組み込みシステムとテスト	16%	53%	31%
IoTテスト（モノのインターネット）	14%	50%	36%
運用管理	10%	56%	34%

回答者の10%近くが、いまだにアジャイル手法を重要ではないと考えていることには、少々驚きました。これは、多くの組織がいまだにウォーターフォール方式を採用しているという重要な注意喚起です。

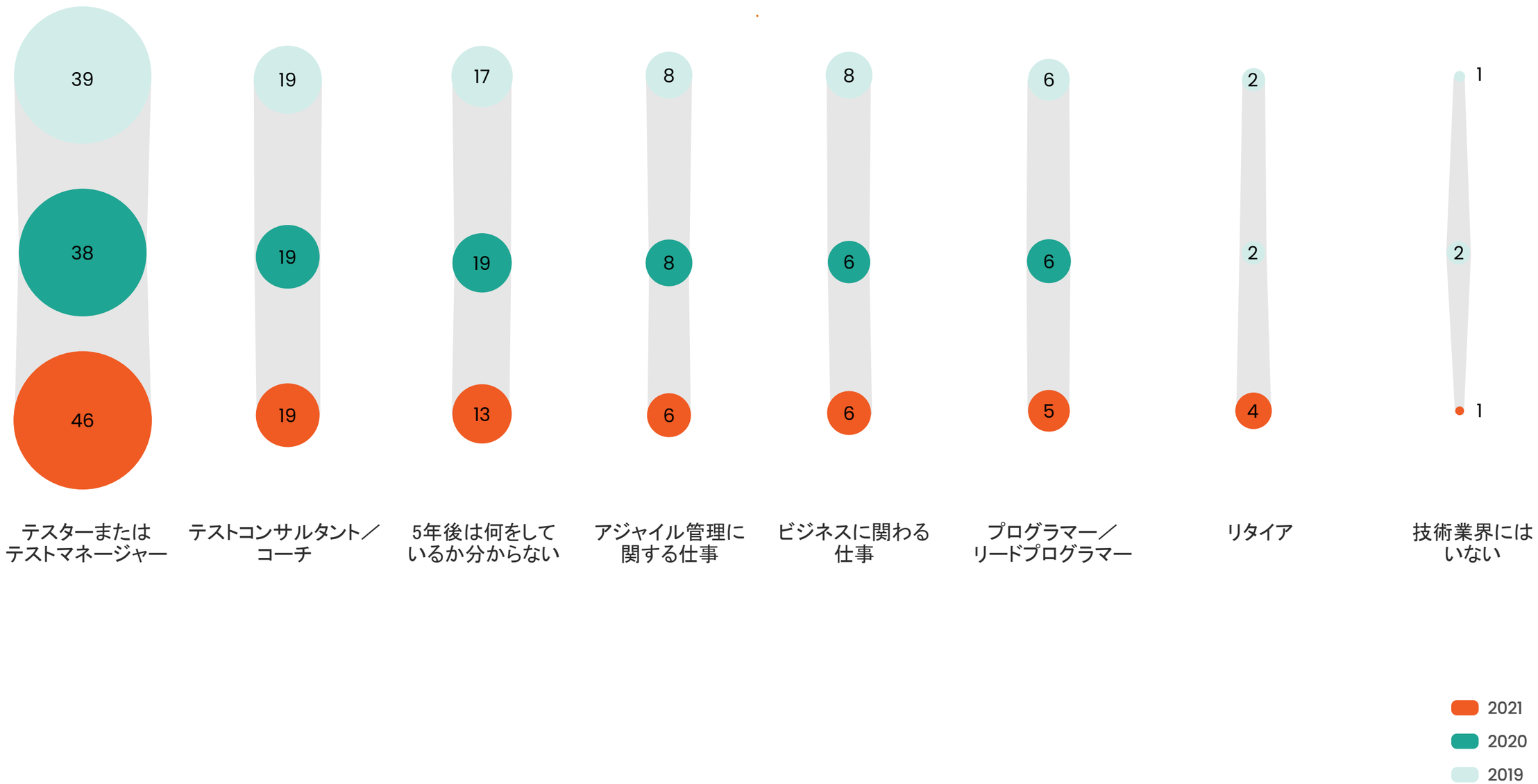
© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

自己啓発

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

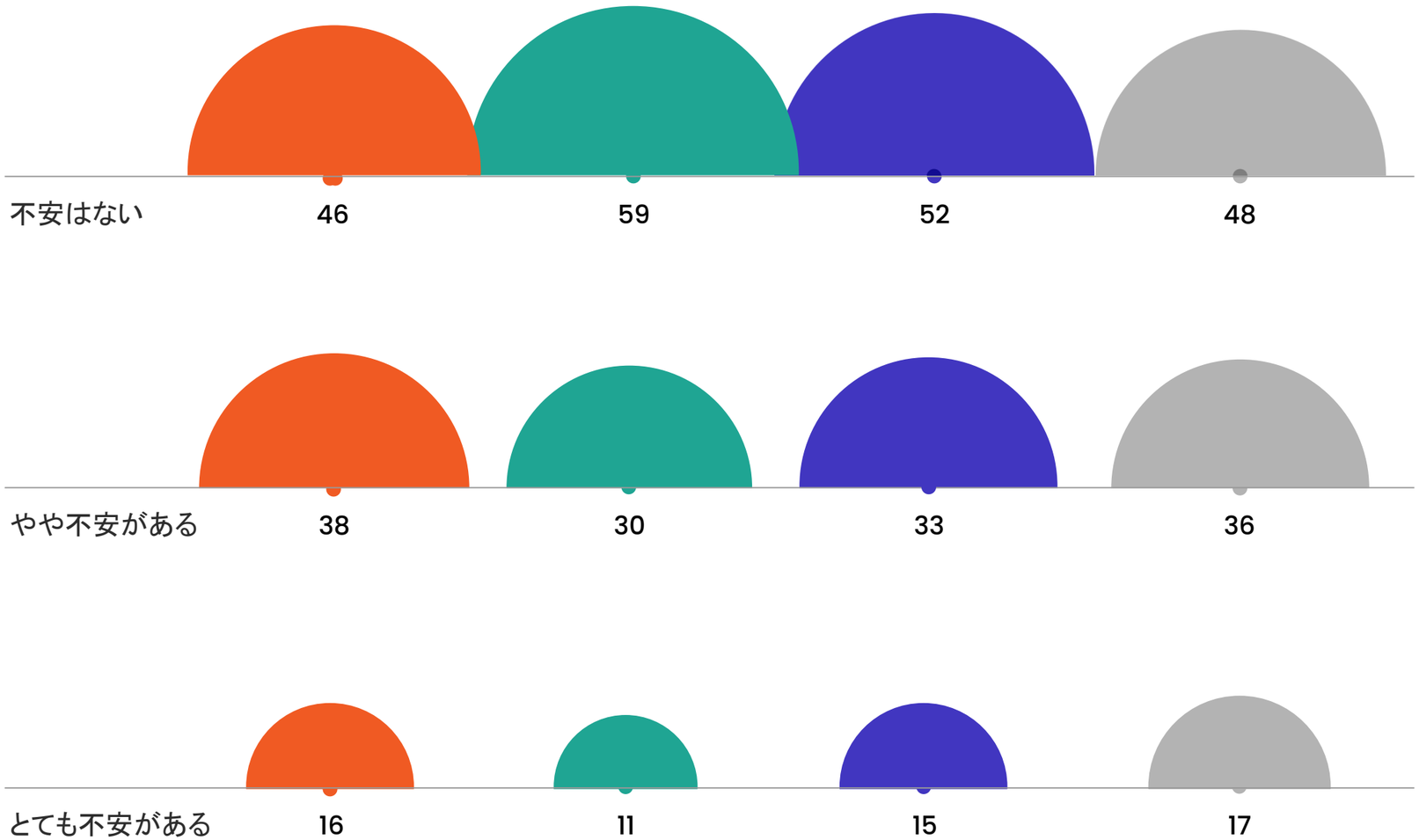
テストの未来

5年後の自分は何をしていると思いますか？



© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

職業の安定性についてどれくらい不安がありますか？



昨年までのここ数年はポジティブなカーブを描いていましたが、今回は不安のレベルに変化が見られます。これは、現在の世界的な状況から来る一般的な影響ではないかと考えています。

- 2021
- 2020
- 2019
- 2018

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

あなたが採用マネージャーの場合、テストの業務に採用しようとしている人たちに望むスキルを変更したり追加したりしましたか？それらはどのようなスキルですか？

- キーワード駆動テストを必要なスキルに追加
- SQLクエリ作成スキル、APIテスト、パフォーマンステスト
- ソフトスキルを重視
- プログラミング、ロジカルシンキング分析
- 探索的テストのスキル
- コミュニケーション
- 継続的テスト（偽のCI/CDではなく）
- コアなテストだけでなく開発／DevOps分野にも柔軟に対応できる人
- 基本的なセキュリティテストのスキル
- テスト自動化作業のほとんどは保守であることを理解した上での本当のテスト自動化

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

テスターとして、あなたの仕事をより良くするために何（人、あなたの組織、業界に関して）が変わって欲しいと思いますか？

”

もっとテスターに敬意を。

探索的テスト担当者のスキルが低いという思い込みの払拭。

自動化はどんな状況でも100%達成可能という言葉は排除されるべきです。

プロセス – 品質向上のためには、プロダクトオーナーから要件を収集し、1つのチームとして開発者と議論するための効率的なプロセスを持つことが重要です。

テスターにもっと力を与え、彼らの視点から考えさせましょう。QAに権限を与えれば、予算を大幅に削減できます。

SREのトレーニング – このトレーニングは継続的なプロセスです。例えば、Webアプリケーションは常に変化しているので、製品についてよく理解するためには入社1週目とか1年目に限るべきではありません。そのため、変化を理解するための専用の時間を他のテスターと一緒に持つことは、この問題に対処するための正しい方向への一歩になります。

テストと品質に対するチーム全体アプローチの採用の拡大。

スクラムチーム間の連携強化。

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

おわりに

終わりから始めましょう：昨年は誰にとっても良い年ではありませんでしたが、テスターにとってはそうでもありませんでした。

確かに、回答者の71%が「収入への影響はない」と答えていることは世界的なパンデミックの年には取るに足らないことではありません。しかし、「とても不安がある」「やや不安がある」と答えた人の割合が、昨年の11%と30%から今年は16%と38%に増えています。これは、パンデミックのストレス下にある人間の一般的な感覚を反映しているだけかもしれないし、そうでないかもしれません。

今回のレポートでは、明るい分野や有望な数字がいくつか見られます。例えば、開発とテストのプロセスの一部としてTDDやBDDを採用する組織が増えているという事実は、組織全体にわたるテストの重要性を示しています。

このことは、開発者がチームのテスト作業に参加していると答えている回答者がおり、テスターがチームメンバーの指導のより中心的な役割を担っているという事実など「全チームテスト」の勢いが増してきている状況と一致しています。

さらに、要件レビューやユーザーストーリー検証プロセスへの参加率が高く、「シフトレフト」の傾向を示していることも特筆すべき点です。
総じて私たちは進歩していると思います。

テストは依然として強力であると思われ、私たちの日々の業務を完璧に行うとともに、発生した問題の可視性を高めてより早く理解することが重要なプロセス領域へ拡大すれば、チームに提供する価値を高めることができそうです。

来年の「テストの現状調査」でどのような結果が得られるのか楽しみです！
このプロジェクトに協力してくれたチームのみなさん、本当にありがとうございました！

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

PRACTITEST

PractiTestは、すべてのQA活動を整理、実行、可視化するためのエンドツーエンドのテスト管理ソリューションです。次のことができます。

- ウォーターフォール、アジャイル、DevOpsで、どのようなテスト方法論についても手動、探索的、自動化など全てのテストタイプを組み込むことができます。
- プロセスの統一化とチームのコミュニケーションの向上のために、最先端のバグ追跡、自動化、CI/CDの各ツールを統合的に組み込むことにより、テストの全ての局面を関連付けられます。
- 高度にカスタマイズ可能なレポートとダッシュボードを用いて、リアルタイムなテスト結果から貴重な洞察を抽出して表示できます。
- よりスマートな意思決定と、より良いソフトウェアのより速いリリースが実現できます。

詳細情報と15日間の無料トライアル版の入手についてはWebサイトへ：

https://www.practitest.com

TEA-TIME WITH TESTERS

Tea-time with Testersは、世界に配信されているソフトウェアテストの（オンライン）月刊誌です。これまでにない変化の波がビジネスやテスト業界、テスターのコミュニティに押し寄せてきている現在、Tea-time with Testersは、明日のチャレンジに必要な最新情報をお届けすることを約束します。それらの情報は、ソフトウェアテストの世界をさらに深く、完全に理解するのに役立つことでしょう。2011年の創刊以来、本誌はテスト刊行物の関係者にとってひとつのベンチマークになっており、本誌がソフトウェアテストの理論や考え方に関する真摯な報告を初めて行いました。そして、改めて、技術的／企業ジャーナリズムの全く新しいジャンルにより近く、より鋭く迫る最初のものになろうとしています。本誌は、世界中のテストコミュニティにおける唯一の月刊誌であり、そのコンテンツの品質、執筆陣、独特な情報提供で知られています。現在、Tea-time with Testersは、世界の英文テスト雑誌の中で最高の発行部数と読者数を誇っています。

より詳細はWebサイトへ：

http://www.teatimewithtesters.com/

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

ご協力いただいた方々

提供	ブログ	メディアスポンサー
Tea-time with Testers	Ben Linders Consulting www.benlinders.com	software testing tools
PractiTest	Zsquare Solutions Inc.	AST ASSOCIATION FOR SOFTWARE TESTING
	Testing Curator Blog Where Testers find what they're searching for!	InfoQ
	Qxf2 Services	TTN
	QA-QC ARenA Software Testing Home for beginners and experts	PYCOGROUP

© 2021 - PRACTITEST & TEA-TIME WITH TESTERS. ALL RIGHTS RESERVED.

PractiTest